

おひさま ニュース

2024

春号

4月15日発行



ホームページ

予約センター
(日曜・祝日除く)

☎0470-25-5121

平日 8:30~17:00

土曜 8:30~12:00

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <https://www.awairyo.jp/>

発行責任者：福内正義 編集責任者：根本達也

多様性

(ダイバーシティ)

の時代に向け

院長 福内正義



社会はますます多様化が進み、異なる文化や背景を持つ人々が交わる時代を迎えています。最近テレビでも耳にするダイバーシティという言葉は多様性を意味しますが、ダイバーシティには外見的に可視化できるものと、そうではないものにわけられます。可視化できるものとしては、性別や年齢、人種、身体的障害などがあり、外見から可視化できないものとしては、価値観、趣味、考え方、スキルなどがあります。昨年にはLGBT理解増進法が施行され、当事者への差別を禁止し、偏見に対する啓発活動の推進が強化されています。これも可視化できないダイバーシティの理解への対応のひとつです。

医療の現場においても、さまざまな価値観やニーズに対応していく必要性があります。個々の患者さまにはさまざまな身体的、精神的、社会的な側面があり、それらを考慮した上で最適な医療、ケアを提供しなければなりません。多様な背景を持つ患者さま一人ひとりに寄り添い、きめ細かなサポートを行うことが重要です。

また勤務する人にとっても同様です。日本では長い間終身雇用という考え方が浸透していましたが、時代と共に仕事に対する価値観

や考え方は変化し、終身雇用という考え方が薄れてきています。さらに少子高齢化が進み、人材の確保がより難しくなっていくことが予想されます。そのためにも多様な人材の確保に力を入れ、会社や病院は運営を継続的に努力し、働き方も個人にあったものに変えていく必要があります。それぞれの個性や事情を尊重しながら、最大限能力を発揮できる環境づくりが不可欠です。

当院を運営する太陽会の介護施設では外国の方の採用を始めています。また、この4月には安房医療福祉専門学校南房総校介護福祉科が開校しました。秋以降には日本語学科が開校予定で、ベトナムを中心に海外から学生を受け入れ、将来日本で介護士として勤務してもらえるような人材を育成する計画をしています。今後ますます不足する介護を担う人材確保につながるものと思います。

病院ではまだ多様性への対応が不十分な部分もありますが、社会の変化に合わせてできるところは改善していきたいと考えています。これからも多様性を可能な限り受け入れ尊重することで、温かい医療の提供を目指してまいります。

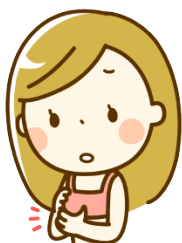


診療科のご紹介

内科系				外科系			その他系
総合診療科	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	腫瘍内科	甲状腺外来	外科	婦人科	脳血管内治療科	救急科
呼吸器内科	膠原病内科	脳神経内科	健診外来	肛門科	乳腺科		透析科
消化器内科	小児科	糖尿病甲状腺内分泌内科		整形外科	スポーツ整形		麻酔科
循環器内科	腎臓内科			泌尿器科	皮膚科		リハビリテーション

乳腺科

みなさま、初めまして。昨年10月より当院の乳腺科に着任しました関と申します。女性にとって乳がんは非常に身近な病気です。今回は乳がんについてお話いたします。



今、国内では毎年9万人以上の方が新たに乳がんと診断されており、日本人女性の9人に1人が乳がんにかかっています。乳がんはすぐ亡くなる病気ではなく、特に早期(ステージ0、I)に発見し治療を開始すれば、5年生存率はほぼ100%です。

乳がんも含めたがんの早期発見に非常に有用なのはがん検診です。乳がん検診はマンモグラフィや超音波を病院で行いますが、乳がんは他のがんと異なり、自分で行うセルフチェックも有効です。一般的にがんは最初から痛みなどの苦痛は伴いません。乳がんも「痛くない乳房

のしこり」で見つかることが多いです。また乳がんは身体の表面にできるがんなので、食事や排泄に影響はほとんどありません。「痛くないから大丈夫」でも、「痩せたり太ったりせず体調も変わらないから大丈夫」でもないのです。

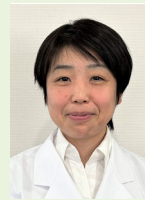


当院では乳がん検診だけでなく、乳がんに対する治療として手術や薬物療法を行っています。自覚症状がなくても定期的に検診を受け、乳房に変化がないか自分で確認することをおすすめします。乳房にしこりなどの自覚症状がある場合はいつでもご相談ください。



せき なつき
関 奈紀

乳腺科 部長



出身地：千葉県市川市
趣味：御朱印集め、美術館巡り
房総の好きなおとこ：空が広い



けんしん通信

Vol. 1

～ 健診と検診 ～

健診室 室長 鈴木基郎

「けんしん」には「健診」と「検診」があり、それぞれ違うことをご存知でしょうか？

「健診」は健康診断のことで、健診結果から、生活習慣を振り返り改善するきっかけを作ります(一次予防)。症状が出ていないうちに病気を発見し早期治療につなげます(二次予防)。

「検診」は特定の病気を発見するために行う

健診？

検診？

検査で、代表的な検診は「がん検診」になります。

今号の「診療科のご紹介」に書かれている乳がん検診は、毎年6月から実施しています。また、子宮頸がん検診



も実施しており、同日に両方の検診を受けられる曜日も設けていますので、お気軽に健診室へご相談ください。



転倒予防にご協力を！

医療安全管理室
セーフティマネージャー

石井朋美

当院では、患者さまが安全に安心して医療が受けられるよう、様々な取り組みをしています。その中の一つに、転倒・転落予防があります。

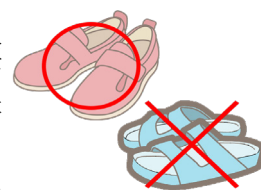
近年、高齢化に伴い、社会全体が転倒・転落の問題に対する対策に力を入れるようになってきています。当院でも転倒転落事例の共有や検討を行う「転倒転落ワーキンググループ」があり、患者さまの目線や動線で、病院内と施設周辺を巡回し、危険な箇所があれば対策を検討しています。

具体的な対応としては、院内の掲示や表示による危険箇所の注意喚起、転倒のリスクが高い患者さまへの対策としては、診察券に目印のシールを貼る・入院患者さまには黄色いリボンをつけていただくなどで、職員みんなで見守りができるようにしています。適宜リスク評価を行い、患者さまに合った対応をさせていただき、予防に努めています。

しかしながら、様々な対策を講じても防ぐことができないの



が転倒転落で、患者さまご自身の協力が重要な鍵となるのです。来院・入院の際には履き慣れた踵かかとの覆える靴の



着用をお願いします。たとえ履き慣れていても、サンダル・スリッパは転倒の危険性が高いと言われており、厚底やヒールのある靴も危険性が高まりますのでお控えください。歩行に不安がある場合は車椅子をご利用いただき、介助が必要な際はお気軽に職員へお声かけください。もしも来院時に転倒してしまったら、すぐに職員へお伝えください。直後は何となくとも時間の経過と共に症状が出現することがあるので、医師の診察を受けていただくようおすすめしています。後日の受診となった場合は、転倒したことを医師にお伝えください。

今後も、みなさまに安心してご来院いただけるよう、職員一同、安全の視点で環境への配慮と対応をさせていただきますので、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

2024年度の健診・検診日程について

特定健診

	実施期間	
館山市	5月14日～ 6月19日	27日間
鴨川市	6月20日～ 7月 8日	15日間
南房総市	8月21日～ 9月28日	19日間
鋸南町	10月 2日～ 10月 7日	5日間

乳がん検診

	実施期間	
館山市	6月 1日～ 2025年 1月31日	
鴨川市	6月 1日～ 2025年 1月31日	
南房総市	6月 1日～ 2025年 1月31日	
鋸南町	6月 1日～ 2025年 1月31日	

子宮がん検診

	実施期間	
館山市	6月 1日～ 2025年 2月28日	
鴨川市	6月 1日～ 2025年 2月28日	
南房総市	6月 1日～ 2025年 2月28日	
鋸南町	6月 1日～ 2025年 2月28日	



5月より、病気の予防、早期発見、早期治療を目的として、感染予防対策を施しつつ、地域住民のみなさまを対象に、住民(集団)健診・検診を実施いたします。



また、各種がん検診につきましても下記日程にて実施を予定していますので、詳細な日程、お申込み等につきましては、お住まいの行政機関へお問合せください。

大腸がん検診

	実施期間	
館山市	特定健診と同日実施	
鴨川市	11月18日～ 12月 3日	7日間
南房総市	特定健診と同日実施	
鋸南町	9月 4日～ 10月31日	9日間

骨粗鬆症検診

	実施期間	
館山市	7月17日～ 7月19日	3日間
鴨川市	7月19日～ 7月21日	3日間
南房総市	9月30日～ 10月 9日	4日間
鋸南町	9月 4日～ 9月10日	2日間

トピックス

令和6年
能登半島地震



石川県に災害派遣

1月1日(月)に発生した「令和6年能登半島地震」の被災地に、千葉県からの要請に基づき災害派遣医療チーム(DMAT)として看



護部長谷川努さん(2/11～14能登町保健医療福祉調整本部)と薬剤室照井純さん(1/14～23珠洲市保健医療福祉調整本部、2/16～21金沢以南保健医療福祉調整本部)が本部業務活動のため派遣されました。また、長谷川さんは千葉県看護協会からの要請で災害支援ナースとして輪島市内の避難所にも派遣され(1/24～27)、



避難所に滞在し避難者の健康観察や有症状者のケア、生活環境の改善などの活動を行いました。

患者さまアンケート調査実施

2月22日から3月上旬の期間に、外来と入院を対象とする患者さまアンケート調査を実施しました。この調査は、当院提供の医療・ケア・サービスが患者さまにとってどのような「経験」だったかをお尋ねし、患者さまの視点での改善に役立てるといものです。



調査結果は集計が完了した後、ホームページへの掲載や院内各所のマガジンラック内に置かれますので閲覧が可能です。

編集後記



おひさまニュース
バックナンバー

当院では、年々増加傾向にある外来や健診の外国人受診者の対応改善のために、ワーキンググループを作り検討を重ねています。言語をはじめ様々な不安を抱え来院された受診者や、対応に戸惑う職員双方の助けになる「お助けキット」等を独自で用意し不安の軽減に努めています。

研修医入職

4月4日(木)に研修医の入職式が行われました。今年度は、初期研修医4名(地域医療を目指す医師の基礎を養成する「地域ジェネラリストプログラム」2年間の課程)と後期研修医2名が入職しました。亀田理事長や福内院長、各部門の役職者が出席し、挨拶や辞令の交付が行われました。

当院は、亀田総合病院の臨床研修病院になっています。6名の医師は、当院をはじめ亀田総合病院や亀田ファミリークリニック館山などで研修をします。患者さまやご家族さまの温かいご指導・ご協力をお願いいたします。



地域ジェネラリストセミナー開催

2月17日(土)当院リハビリテーション室主催の「地域ジェネラリストセミナー」がオンラインで開催されました。講師に亀田総合病院リハビリテーション科主任部長宮越浩一先生をお迎えし、対象となる院外の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士31名が参加しました。当院のスタッフが進行や配信を担当し、高齢者リハビリテーションの難しい課題である離床に焦点を当て、様々な角度から活発な意見交換が行われました。



今年度も研修医や看護師、コメディカルなど新入職員が入職しました。また、太陽会の関連施設から外国人を含めた職員が、研修のため当院に勤務しています。みなさまの「助け」をお借りして新たな環境で日々頑張っています。温かい応援をお願いいたします。



じゅんべりい